

平成27年度 三条市国語部 活動報告

部長 高松 有子

1 研究主題

国語科新教科書の活用法について

2 研究の概要

日常実践における指導力向上をめざし、以下の研修を行った。

○東書3年教科書を実際に使い、模擬授業を取り入れた講義

3 研究の実際

講義「国語科新教科書の活用法について～東書3年教科書を中心に～」6月25日（木）

講師：浅野 秀之 様 （新潟市立漆山小学校長）

今年度新しくなった東書の教科書の「書く」「話す・聞く」「伝統的な言語文化」等の各領域に渡り、2学期すぐに活用できる日常実践での指導法について、模擬授業を交えて講義していただいた。

実際に、東書3年（下）の教科書を使い、目次の活用方法、「書く」「話す・聞く」等の単元を具体的に俯瞰し、日常的に繰り返し身につけさせたい国語の学習技能を模擬授業で示してくださった。

また、web国語テストの県平均と自校平均の関係についても示唆に富むお話を伺えた。授業の形で提示してくださった。

会員からは、「明日からすぐ実践できる」「学校でも他の職員に広めたい」という感想が多かった。



《参観者の感想より》

○教科書は「題材集」。それを教師の腕前でどう料理するか、課題を与えられたと感じた。

○「書く」単元を授業形式で話していただいだけ、大変よかった。「板書と一緒にノートを書く」「途中で子ども達の進捗を確認する」など、すぐに実践できる内容ばかりだった。

○作文は、書き直しばかりでなく、書けたところを加点法でほめる。苦手な子には、教科書の例文を変えさせる。など、具体的な手立てを教えていただけた。

○日常の指導に生かせる指導のコツをたっぷり教えていただき、とても参考になった。帰って、若い先生方に広めたいと思った。特別支援を要する子ども達にもあてはまるがあった。

4 成果と課題

今年度は1回の研修会であった。講師による講義ではあるが、模擬授業形式の講義であり、授業のテンポや明確な指示の大切さ、教科書をどう具体的に活用するか示唆に富む講義であった。会員は、自学級の児童を想起し、教師の具体的な行為の意味を考え、自分の実践と比較検討することができた。会員からは、ぜひ来年もこのような連動した研修をしたいという声が出る等、有意義な研修となった。

今年度は、1回のみでの研修であったので、例年のように2回研修を実施し、うち1回は授業研修としていきたい。